

横浜市 歴史博物館 NEWS 9 1999・9

- 雲
- ◇いんたびゅー／永井路子「女性を主人公にすると違う視点で歴史が見える」
 - ◇開館5周年記念特別展「秀吉襲来ー近世関東の幕開けー」によせて
 - ◇＜研究余話＞テバネザオー田中邦昌さんの横浜竿ー
 - ◇収集・収蔵資料の紹介〔11〕大熊仲町遺跡出土の土偶
 - ◇＜常設展示室探検＞レファレンス・カウンター
 - ◇＜博物館ウラばなし＞博物館の燻蒸
 - ◇よこはま史話Ⅰ 開港場横浜ものがたり 発刊
 - ◇＜知ってますか？＞遺跡公園ガイドボランティア



5周年

●常設展示室 中世模型 戦いにむかう武士

女性を主人公にすると 違う視点で歴史が見える

◎歴史小説を書くようになったきっかけは。

私が戦前、教えられた歴史は隠された部分が非常に多く、教わったことと事実とは違うのでは、と少し疑問に思っていました。二〇歳で敗戦を迎えた時、その隠された部分が一気に引き取られ、以前の歴史が書き換えられました。そういう現実に出会ったことから、もう少し歴史を考え直してみなければ、と思ったのが始まりです。小説は少女時代から読むのは好きで、戦後まもなく懸賞小説に入選したことがきっかけで、書くことにも興味が増えました。それで、歴史も小説の形でとらえてみたいと考えるようになったのです。

◎歴史小説を書く魅力はどんなことですか。

書く時には第一に、今まで伝えられてきたことがどれだけ本当か、真実はどうだろうかと探ります。史料に書いてあるから真実、とは言い切れない場合があります。史料には書き手の主観が入りますから。そこで別の見方ができないかと探っていくと、史料とのつき合いも深まり、自分で発見することもある出てきます。それが、私を歴史小説から離れられ



なくした魅力だと思います。

政権争いで乳人が活躍

◎当館特別展「幻の宮 伊勢斎宮」に関連した講演会で、伊勢神宮に仕えた斎王という皇女たちについて話していただきました。斎王のように特別な立場の女性に限らず、女性を中心に歴史をとらえる、それまで見えなかったことが見えることがあります。

日本では江戸時代から明治期にかけ、女性には歴史に関わらないもの、という思い込みがつけられ、それにより、歴史の中で女性の動きが見落とされてきました。それは私が歴史小説を書きながら実感したことです。例えば権力者の子の乳人と呼ばれる女性の活躍です。私が『炎環』で梶原景時を書くのと調べるうち、彼は阿波局という女性の告げ口が発端と

なって失脚したことを知りました。彼女は源実朝の乳人です。乳人は夫婦で務め、景時も夫婦で実朝の兄、頼家の乳人をしていました。景時が失脚すれば頼家の地盤が危うくなり、実朝が將軍になる可能性が高まる。阿波局はそういう政治的野望から、景時を引きずり下ろす陰謀を企んだと気づきました。このように乳人はお乳を上げる単なる乳母にとどまらず、その子を教育し、政治の舞台に押し出すために大活躍する人です。これが平安から江戸初期まで続き、政権強奪などにはしばしば乳人が活躍しています。

女性の意義を見直して

◎女性を主人公にすると、新しい視点で描けるものがありますか。

それを私は各時代でやってきました。奈良時代は元正女帝を書きました。藤原道長の時代は、彼の姉や妻が栄華を築く底力になっていて、そのことを『この世をば』に書きました。鎌倉時代を描いた『炎環』では乳人と北条政子を取り上げました。政子は頼朝の妻としてより、息子たちが將軍になってから、その母という立場で政治の力を発揮します。室町時代では、足利義政の妻で経済力も大きかった日野富子を主人公にしました。このように戦後五〇年間、これまでと違う歴史の見方を探りながら書いてきました。女性を多く取り上げたのは、歴史の中の女性の意義を見直してほしい、という願いがあったからです。

土器づくり体験が面白い

◎横浜の歴史について何か感じること

は。

全体的に、明治以後の日本の近現代化の窓口となり、特殊な歴史を持つところだと思っています。私は今、最後の仕事として何人かの人物の史伝をまとめており、その中の一人に五姓田義松という画家がいます。開港期の横浜で外国人から洋画を学び、その後フランスに渡り、日本人で初めてサロンという展覧会に入選します。しかし帰国すると、日本の絵画の流れが変わっていたので、失意の日々を送りました。外国文化に一番早く触れる横浜に育ちながら、どうしてそういう結果になったのかに興味があります。

◎当館について感想を聞かせてください。

今、歴史では考古学的なことが注目を浴びています。ここは遺跡と結びついていきますから、そういう意味でタイムリーだと言えます。体験学習で行っている土器づくりも面白いですね。縄文時代の人々がどのように土器を作ったか実際にやってみるのは、歴史を知る上で良いことだと思います。

▽ながい・みちこプロフィール

●一九二五年、東京生まれ。東京女子大学国語専攻部卒業。出版社勤務を経て文筆業に入る。一九六四年、鎌倉時代を描いた短編連作集『炎環』で第五二回直木賞を受賞。この作品を出発点に、天平から江戸までの各時代を題材にした歴史小説を多数著す。小説のほか史伝、史論、随筆、紀行文も数多い。一九八二年『氷輪』で女流文学賞、一九八四年、第三二回菊池寛賞、一九八八年『雲と風』で吉川英治文学賞を受ける。

●著書『北条政子』『王者の妻』『朱なる十字架』『乱紋』『流星』『歴史をさがせた女たち』『茜さす』『噂の皇子』『探定の皇女』『異議あり日本史』『山霧』『王朝序曲』など。一九九六年、『永井路子歴史小説全集』（全一七巻、中央公論新社）刊行。

「秀吉襲来―近世関東の幕開け―」によせて



豊臣秀吉木像（大阪城天守閣蔵）

吉（長政）・木村常陸介を中心とし、家康家臣を含めた別動部隊が編成され、四月二六日に彼らは小田原を発ちます。南関東一円に広がっていた北条氏の支城を攻略するためです。秀吉は、巨大城郭・小田原城を孤立させる作戦に出たのです。

現在、関東各地には天正一八年の秀吉朱印の禁制が数多く残っています。横浜地域にも四月の日付のものがあ

ります。「禁制」とは、戦乱の中で乱暴や狼藉を回避するため、軍勢の「統率者」が戦場となった地域に発するものです。しかし、秀吉の朱印があるからといって、

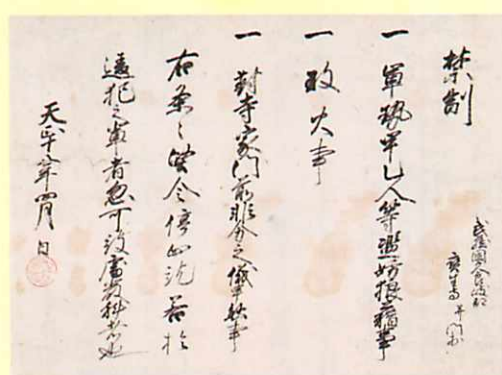
豊臣秀吉の関東侵攻は、横浜地域を含む関東地方にはかり知れない混乱と変貌をもたらした。その後の徳川家康による関東の領国経営にも少なからず影響を与えています。今回の展示会では、関東侵攻のメインとなった小田原合戦を、これまでとは異なった新しい視点、南関東全域の視点からみることを目的としています。ここではその一端を紹介してみましよう。

天正一八（一五九〇）年四月上旬、秀吉らの豊臣軍は箱根湯本の早雲寺に陣を構え、小田原城をじっくり攻略することにします。この豊臣軍のうちから浅野長

吉（長政）・木村常陸介を中心とし、家康家臣を含めた別動部隊が編成され、四月二六日に彼らは小田原を発ちます。南関東一円に広がっていた北条氏の支城を攻略するためです。秀吉は、巨大城郭・小田原城を孤立させる作戦に出たのです。現在、関東各地には天正一八年の秀吉朱印の禁制が数多く残っています。横浜地域にも四月の日付のものがあ

この事例から推測すると、四月二六日に小田原を発った別動部隊は、秀吉から遣わされた禁制を持っていたということになります。また、埼玉の浦和郷に宛てた四月二九日付の浅野の書状には「当所へ御朱印を取り次ぎ候て、狼藉の族あるまじく候」という文言がみえます。この「御朱印」とは秀吉朱印の禁制のことで、ここから禁制と浅野の書状がセットで出されていたと考えることができます。秀吉の禁制が「四月日」と大雑把な日付であるのに対し、浅野の書状は「四月二九日」と具体的な日付を記しているため、書状は軍勢の動きを追っていくには貴重な資料となるのです。

横浜地域やその周辺における秀吉の禁制の残り方をみると、四月二六日に小田原を発った浅野らの部隊は、鎌倉から大船の玉縄城あたりを進軍し、さらに横浜地域の本牧から永田（南区）や神奈川、博物館周辺の茅ヶ崎や大柵・勝田（都筑区）あたりを通過していったと考えられ、北条氏の拠点である小机城（港北区）での両軍による激しい攻防戦などが想起されます。東京の世田谷や麻布などにも、天正一八年四月日の秀吉の禁制が残されているので、その後、このあたりを通過して浅野らの軍勢が江戸城攻略へ向かったでしょう。わずかな資料からですが、浅野らの侵攻経路を推測することができ



豊臣秀吉禁制 久良岐郡宝生寺井門前宛（宝生寺蔵）

今から四〇〇年程前のこうした事例は、広い視野から、ある程度広範囲に見ていかないと、詳しいことがわかりません。展示会では、城郭遺跡から出土した考古資料などもふくめ、さらに多くの資料を紹介します。

（曾根勇二）

テバネザオ — 田中邦昌さんの横浜竿 —

一 神奈川宿の地先

神奈川宿を描いた煙管亭喜莊きさだの作品『神奈川駅中國会』(文政六年/一八二三)は、往時の生活の様を伝えてくれる好資料です。とくに「海沖漁之図」には、當時行われていた漁法、投網漁・釣り漁・鵜縄漁・打瀬網漁が描かれています。

釣り漁以外は、現今、この界隈では、もはや見ることでできない漁法となっていますが、これらの漁が行われていたことは、神奈川宿の地先が、魚類の棲息に



海沖漁之図

適したアジモが生い茂る遠浅の浜であったことを如実に物語っています。それ故、江戸幕府の御菜八か浦の一浦として位置づけられたのです。

また享保年間(一七二六―一七三六)に津軽采女正さくらんめによって出された『何羨録』には、袖ヶ浦と称された神奈川地先のネ、古根・中根・今根など一四のネが記されています。これは神奈川沖の漁場案内として、江戸の釣り好きに周知されていたことでしょう。漁をこよなく愛した遊客が、神奈川宿を訪れたことは十分に想像されます。

二 竿師田中邦昌さんの誕生

このような歴史をもつ神奈川の一角で、かつての漁師の間で作られ使われたテザオ、つまりテバネザオが竿師田中邦昌さんによって作られています。田中さんの仕事場にお邪魔したのは、昭和五三年一月のことでした。すでに二〇年が経過していますが、調査取材依頼の電話を入れた時の記憶がよみがえります。それは漆にかぶれても、いいんだっただうぞという言葉でした。竿の強度と水切りのために、製作段階で何回となく漆を

塗るからです。覚悟をきめて半日、仕事場に居座ったものでした。

さて田中さんが竿師の道に進んだ最大の契機は、昭和三八年、三十一才の時に伊勢佐木町の野澤屋で開催された釣りのコンクールに釣竿を出品し、優美賞を得、神奈川新聞社の文化・釣り担当の長島万水さんと出会ったことでした。それ以降、「釣竿は、みえない所に、どのくらい手を加えるかで善し悪しが出る」をモットーに竿の製作が続けられています。

三 釣竿の材料

釣竿の種類は、海川を合わせると約二〇〇種類はあろうとされています。田中さんの製作する主なテバネザオは、キス用・タイ用・カワハギ用・クロダイ用・五目竿の五種類で、対象魚の負荷によって、竿全体のバランスが調整されますが、何といっても伝統的な特徴は、ホサキに鯨のヒゲが使われていることです。五目竿は、かつて漁師の間でオバケザオといわれていた竿で、東京内湾の漁であれば、どのような魚でも釣り上げることができるといいます。それも鯨のホサキに依っているのです。

竿は、テモト・ドウ・ホサキの三部分によって構成されています。それぞれの部分の材料は、テモト部にはハチク・マルブシ・モウソウ、ドウ部にはマルブシ・ヤダケ・ホテイチク、ホサキ部には鯨のヒゲ、とくにセミクジラ・シロナガスクジラのヒゲが使われてきました。さらには梨子地漆(ナシジ)・生正味漆(キシヨウミ)・蠟色漆(ロイロ)・瀬漆(セシメ)・塗立漆(ヌリタテ)・上花漆(ジョウハナ)などの漆と、絹糸、綿糸、ガイドが材料として準備されます。

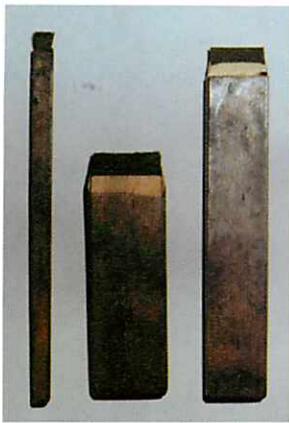
釣竿の大半をしめる竹は、埼玉県川口にある竹間屋から入手していますが、その竹の扱いは大変で、三年以上は自然に枯らさなければなりません。その間に虫が竹につきます。最低でも一〇パーセントは虫がつくといわれ、夏の盛りに竹を部屋に入れ、クーラーで室温を極端に下げ、虫封じをします。とくにドウ部に使うヤダケには虫がつきやすく注意がはらわれます。

このように管理されてきた竹は、竿師の腕によって釣竿に加工される段階をむかえますが、竿師にも技能の差がありま

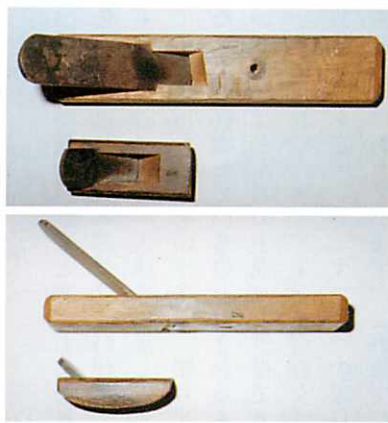
す。たとえば選別して購入した竹一〇〇本を再度選別した後、そこから五〇本の釣竿を作る竿師、八〇本の釣竿を作る竿師というように、それぞれの竹の質を見極める眼力と、より一歩前をみすえた高度な釣竿を求める姿勢によって、その製作本数に差がでるのです。田中さんは月平均一〇本の竿作りを理想としています。たかが釣竿されど釣竿の世界なのです。

四 釣竿製作道具

釣竿の製作に使う道具をあげると次のようです。竹を切断するドウツキノコ、竹の節抜きや内面の肉の磨きなどに使うケンサキ・ヤナギツパ・カギツパ・スクリユウパ・フクロツパ・スプリング・コ



ウルシハケ



カンナ 上：コミカンナ 下：カンナ



コスリボウ

スリボウの類、竹の曲がりを修正するタメギ、コガタナ、キャサニツパ、定規、カネヤスリ、トグサ、カンナ、コミカンナ、電動モーター、それに漆関係としてウルシハケ・メンソウ・ウルシコネ・ウルシダイ・室、漆を保管する冷蔵庫などです。

これらのうち節抜きの工具をとりあげると、ヤナギツパはホテイチク・ヤダケの加工に、カギツパとスクリユウパはメダケに、フクロツパは繊維の細かいハチク用の工具というように、各種の竹の質に応じた道具が準備されているのです。

五 テバネザオの製作工程

テバネザオは、注文に応じてノベザオ・インロウヅキ・ナミヅキに作りあげられます。寸法は、かつては五尺（約一五〇センチメートル）を基準に四尺五寸・四尺二寸・二尺八寸に仕上げられていましたが、近年は漁そのものが大型の遊漁船を使つての釣りへと変わりました。そのため竿の寸法も五尺以上、六尺の竿の注文もあるといえます。

ここではノベザオ作りの工程をまとめておきましょう。まずシノアライといっ

て、シノダケをミガキズナを用いて洗います。その際、とくに節の部分のハカマとメを注意して洗います。これを三年間枯らしめます。注文を受けると、竹運びを行いドウツキノコで切ります。この際に竿の寸法は決まります。カンナで節目を削りとり、ホサキ側から息抜き用の穴をケンサキであけ、火いれの準備をします。七輪で炭をおこし、二個のレンガを置き、その間に竿にする竹をさし入れ熱を加えます。頃合をみてタメギでもって、竹がもつ歪みを修正しますが、これは難しい技術で、八分ぜめに仕上げると良いとされているものの、年季を要します。そのためタメ専門の職種が成り立っていたといわれています。トグサでもって節をみがきます。

次に竿全体を強化させるために、糸を巻く箇所を見極め、甘皮をコガタナやガラスでもって削ります。その深さは絹糸二本分とされています。ホサキ用の鯨のヒゲが加工され竹の先端に差し込まれますが、補修を考えて接着剤は飯粒で作ったソクイを使います。ちなみにタイ用と五目用のホサキの根元は直径九ミリに加工されます。

節部の補強と節を美しく見せるための細工をします。トノコとジノコを水でこね作つたものをソクイに加え、さらに漆を加えてパテを作ります。これを節のメに塗り込み、七日ほど自然乾燥させます。そして竿全体のバランスをみながら、パテ塗りとそれを整えるための削りの作業を繰り返し行います。前述の糸巻きの箇所



火いれ タメギで竹の歪みを修正する 左側：横浜竿 右奥：室

ホサキに向かって巻き、乾燥後、室に約六時間入れます。室の温度は摂氏二〇度内外、湿度は六〇〜七〇パーセントに保たれています。

室から取り出した竿には、何回となく漆を塗り、乾燥させ、ガイドが取り付けられます。その塗りと乾燥の回数が並竿と上物竿との差となりますが、常に繊細な神経と細工が、一本一本の竿に注がれています。邦昌の焼き印が押されると完成です。

別れぎわに、私の作つた釣竿は飾り物ではない。海で使つてもらつてこそ、その価値がでるんです。と一言いわれました。

田中邦昌さんは、その豊富な技能と人格が認められ、第一期の横浜マイスター（平成八年度）に選ばれました。

（岸上興一郎）

おおくまなかまち

大熊仲町遺跡出土の土偶

土偶は今から約一万二〇〇〇年以上

前、縄文時代の草創期と呼ばれる時期から作られはじめ、一部は弥生時代まで続く土製品の一つで、人体を表現したものです。乳房をもつものが多く、張り出した腹部が妊娠している姿と解されるものがあり、ほとんどの土偶は女性像であると考えられています。生命を育む女性の神秘と力を表現した「マツリ」の道具であるともいわれています。これまでに日本全国から出土した土偶の総数は一万五



〇〇〇点にのぼりますが、発掘調査によって年間数百点の土偶が新たに発見されています。

歴史博物館の常設展示室・原始Ⅰにも、港北ニュータウンの発掘調査によって出土した三点の土偶を展示しています。うち一点が大熊仲町遺跡のJ五一号住居跡から発見された、縄文時代中期の土偶です。大熊仲町遺跡は広大な台地上に営まれた大型の環状集落遺跡で、一七〇軒以上の竪穴住居のほかに、掘立柱建物や貯蔵穴、墓壇

など多くの遺構が調査されました。遺跡は都筑区仲町台三丁目にありましたが、現在は住宅地になっています。

この土偶は長さ七・五センチメートル、幅六・八センチメートル、厚さ一・七センチメートルで、腕を大きく広げた形をとり、足や顔面は省略されています。胴部には粘土を貼り付けて乳房と腹部を盛り上げ、細い線で文様を描いています。

側面・裏面にも文様は続いており、ていねいに作られていることがわかります。これは衣服の表現なのかもしれません。

このような土偶は今から約四〇〇〇年前にあたる、縄文時代中期後半の加曽利E式土器が使われた時期にみられるもので、神奈川県や東京都を中心とした地域に分布することが知られています。この地域は、関東地方の加曽利E式土器と中部高地の曾利式土器の分布が接触する範囲にあたります。土偶の胴部の文様も、中部高地のものに非常によく似ています。この土偶は、関東の土器と中部高地の土器とを合わせ持つている地域に特徴的なものだと考えられるのです。

こうしたことから、横浜市域を含む関東地方西部には、縄文時代中期の集落間に共通した土偶の「マツリ」が存在したと予想することができます。「マツリ」の姿を復元することは困難ですが、このあたりに住んでいた縄文時代の人々が、共通の意識をもって土偶を取り扱っていたと考えられ、土偶にこめられた願いに、少しだけ近づけたような気持ちになるのではないのでしょうか。

現在、大熊仲町遺跡の整理作業は埋蔵文化財センターで進められています。発掘調査報告書の刊行後に、この土偶は正式に博物館に移管されることになっています。また、博物館では平成一二年の秋に縄文時代関連の展覧会を計画しておりますので、どうぞご期待ください。

常設展示室探検

レファレンス・カウンター

展示室の中央にあるスタディ・サロンの一画には、細長いレファレンス・カウンターが置かれており、常時、案内係が座っています。

ビデオ・ブースや館内資料を検索する端末機器、歴史クイズなど、それらの使い方がわからなかったり、トラブルが起きた場合など、気軽に声をかけてください。館内の状況や催し物の情



報もここで聞くことができます。また、専門的な質問が出された時、より詳しい情報が求められた時などには、ここから研究室の学芸員や図書閲覧室に連絡が入ることになっています。外国語のパンフレットや解説シートの予備もここに置いてあります。

レファレンス・カウンターは、館内の様々な案内、情報の提供、機器の使い方、質問への対応など、多様なニーズに応えられるようになっています。



博物館の燻蒸くんじょう

博物館の重要な役割に、収集した資料を後世に残すことがあります。資料が壊れたり、劣化がおきないようにして、保存します。

資料が劣化する原因の一つに虫やカビがあります。個人のお宅で保存されてきた古文書には、虫食いがあったりシミや



常設展示室に展示している資料の目張り作業
模型や展示資料をビニールでぐるんで密閉します。ガスが漏れないように注意しながら作業を進めます。

カビが原因で紙の色が変わったものをよく見かけます。また木でできた農具などは、虫食いやカビ・シロアリでまるでバルサ材のようにすかすかになってしまったものもあります。このようになっては、資料を長く後世に伝えることはできません。また博物館の常設展示室は、年間八万人もの来館者を受け入れています。人の出入りがある以上、虫やカビはどうしても一緒に入ってきてしまいます。このような虫やカビが、建物内部を伝わって収蔵庫にはいつてしまう可能性もきわめてわずかですが考えられます。資料を後世に伝えるために、博物館では燻蒸を行い、このような虫やカビによる被害を防いでいます。

燻蒸とは、資料の入った空間を密閉し、薬剤を気化したガスを用いて虫やカビを殺す方法です。最近では家庭用の燻煙剤も発売されていますが、原理はそれと同じです。博物館では、資料の保管場所である収蔵庫・書庫と常設展示室の燻蒸を、毎年一回行っています。このほか新たに収集した資料に虫やカビがついている可能性もありますので、収蔵庫に入れる際は必ず燻蒸を行っています。この燻蒸は、博物館に設備されている燻蒸庫を使って行います。

収蔵庫と常設展示室の燻蒸は、容積が大きいためにとても大変な作業になります。収蔵庫はガスが漏れないように、空調機の吹き出し口・入口扉・二酸化炭素消火装置・電気などの配管などに目張りを行います。ガスはわずかな隙間でも漏れてしまうので一番気を使う作業です。目



収蔵庫の投薬作業
薬剤は、気化して投薬します。万一の漏洩(ろうえい)に備えて、ガスマスクをしながら作業を進めます。

張りが終わると投薬です。容積が大きいために、投薬量は二五〇キログラム余りにもなります。ガス濃度が均一になったあと二四時間で虫は完全に死滅し、その後ガスを除去します。燻蒸に使用する臭化メチルという薬剤は、現在問題となっているオゾンを破壊する性質を持っているために、当館でガスを除去する際は活性炭で除毒を行うことにしています。除毒には投薬量の約六倍の活性炭が必要で、一回で一・五トンもの活性炭を使います。二日間ほどかけて除毒を行い、最後に新鮮な空気に入れ替えて、燻蒸は終了します。燻蒸庫での燻蒸も基本的には同じですが、密閉できる燻蒸専用の装置を使うために、目張りの作業は不要となっています。

燻蒸は、地味な作業ではありますが、博物館の資料を後世に残すには欠かせない仕事の一つです。

よこはま史話Ⅰ 開港場横浜ものがたり 発行

博物館では、市民の方々に分かりやすく横浜の歴史や文化財について知っていただくさまざまな活動を行っています。今年、「よこはま史話」と題して写真や図版をふんだんに掲載し、雑誌感覚で読めるブックレットを発行しました。その第一号が本書です。

今年、横浜が開港した一八五九(安政六)年から数えて一四〇年、欧米諸国との「不平等条約」が改正された一八九九(明治三二)年から百年にあたります。それを記念して企画展「開港期・横浜の風景」を開催すると同時に本書を出版しました。開港や条約改正などの史話を写真や浮世絵などとともにわかりやすく解説しました。巻末には年表や参考文献一覧もついています。博物館ミュージアムショップのほか市内の有隣堂などでも販売しています。

(編集・発行) 横浜開港資料館・横浜市歴史博物館 定価八〇〇円)



INFORMATION

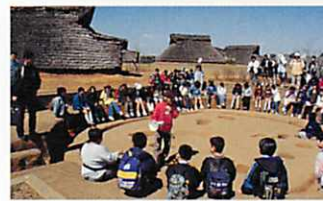
今後の企画展のお知らせ

- ◇企画展 中世の梵鐘—物部姓鋳物師の系譜と作例—(仮題)
1月29日(土)～2月27日(日)
鎌倉時代から南北朝時代にかけて、関東を中心として活躍した物部姓梵鐘鋳物師の作品を紹介します。
- ◇企画展 近世の都筑(仮題)
3月25日(土)～5月14日(日)
江戸時代の都筑区とその周辺地域の状況を紹介します。
- ◇開館5周年記念イベント
館蔵品の紹介展示 12月14日(火)～1月9日(日)
写真・ポスターでふりかえる5年のあゆみ
10月9日(土)～3月31日(金)
特別講演会 2月6日(日)
ミュージアムショップ プレゼントフェア
10月9日(土)～11月28日(日)



???????知ってますか???????

遺跡公園ガイドボランティア



博物館の隣の大塚・歳勝土遺跡のガイドが、今年から市民のボランティアの方々により始まりました。そろいの赤いジャンパーを着て、ハンドマイクを持ち、博物館2階の受付から公園へ、大塚・歳勝土遺跡、都筑民家園をめぐる約60分で解説します。春の小学校社会科見学の時期には、連日、1回100人の生徒を引率し解説しました。3月に開始し、8月末までで13000

人以上の方をガイドしました。ボランティアは昨年登録された45人の方で、研修を受け、2週間に1回活動しています。遺跡についてじっくり勉強するのは初めての方も多く、始めた頃は、資料を片手に緊張しながら行っていました。最近は徐々にゆとりも生まれ、グループでガイド方法の研究をしたり、来館者にガイドの存在を知っていただく工夫を提案したり、積極的に楽しく活動しています。解説はどなたでも受けられます。料金は無料です。博物館2階に受付がありますのでお申込みください。団体の方は電話でも予約を受けています。

横浜市歴史博物館 ● 日誌 ●

(99年4月1日～99年9月30日)

- 4月10・11日 体験学習「小田原ちようちんづくり」
- 4月17日 作品展「私たちが作った縄文土器」(5月16日まで、観覧者18,135人)
- 4月25日 特別展関連講演会 永井路子「歴史の中の女性・伊勢斎王」
- 5月2・3日 体験学習「ぞうり編み」
- 5月5日 特別展「幻の宮 伊勢斎宮」終了(観覧者27,317人)
- 5月18日 歴史講座「横浜の近世」(7月20日まで連続10回)
- 5月22・23日 体験学習「簞笥づくり」
- 5月27日 <ふるさと横浜探検1> 鶴見川流域の原始・古代の史跡探訪
- 5月29日 開港140周年・条約改正100周年記念展示PART1「開港期・横浜の風景」開催(7月4日まで、観覧者12,926人)
- 6月26・27日 体験学習「土偶づくり」
- 7月31日 企画展「海と暮らしていた頃」開催(9月15日まで)、企画展関連イベント「海にかかわるビデオ上映会」(会期中の土・日・祝日)
- 8月3・4日 企画展関連イベント「万祝染め体験教室」
- 8月5・6日 体験学習「風車づくり」
- 8月8日 企画展関連イベント「お馬流し見学会」
- 8月10・11日 体験学習「まがたまづくり」
- 8月12・13日 体験学習「火おこし体験」
- 8月14・15・28・29日 「夏休みれきし教室」(参加者351人)
- 8月27・28日 体験学習「まがたまづくり」
- 9月1日 防災訓練
- 9月5日 企画展関連講演会 田辺悟「東京湾の漁撈と暮らし」
- 9月30日 <ふるさと横浜探検2> 「鶴見周辺の旧東海道を歩く」



「私たちが作った縄文土器」野焼き風景

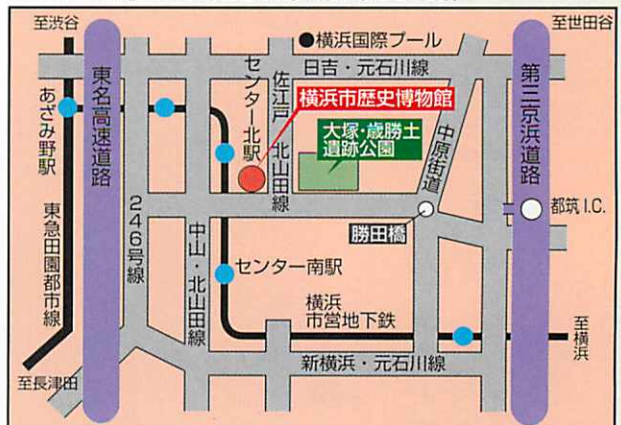
横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

- 開館時間
午前9時から午後5時まで(ただし、入館は午後4時30分まで)
大塚遺跡、都筑民家園を除く公園部分は24時間オープン
- 休館日
月曜日、祝日の翌日、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。
- 常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

- ◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。
- ◆第2・第4土曜日は、小・中・高校生は無料です。
- ◆「長寿のしおり」「敬老特別乗車証」「愛の手帳(療育手帳)」「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

- 交通案内図
横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
(「センター北駅」へは横浜駅から23分 新横浜駅から12分)



駐車場あり(2時間400円)

- インターネットホームページを開設しています。ご利用下さい。
<http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

編集後記

おかげさまで博物館も1999年1月31日に開館し、来年の1月で5周年を迎えることになりました。10月開催の記念特別展「秀吉展—近世関東の幕開け—」からスタートし、関連イベントもいろいろ準備しています。博物館ニュースも今回10号は5周年記念号と進めています。ぜひこの期間に一度お出かけください。

